



世の中探検隊

WATCHING

高校生プロゴルファー石川遼選手が目覚ましい活躍や、宮里藍選手、横峯さくら選手ら若手の華やかなプレーに刺激され、ゴルフに興味を持つ子供が増えています。(渡辺光彦)

今月6日夕、東京都世田谷区にある「千歳ゴルフセンター」を訪ね、子供向けのゴルフ教室を取材しました。手にグローブをはめ、運動靴をはいた小学1〜6年生の男女7人が、コーチの古橋一将さん(39)の指導を受けています。

ゴルフはボールを飛ばす距離によって、使うクラブの種類や、スイングの仕方が変わってきます。まず講義で打ち方の基本を確認してから実践に入り、いろんなスイングやショットを練習します。腕の振りの大きさを変えて10、20、30ヤード(1ヤードは約91センチ)ごとに打ち分けてみたり、50ヤード先のグリーン上にボールを乗せてみたり。みんな一生懸命にボールを打ち続けていました。

レッスンで教わるのは技術だけではなく、イギリスで生まれ、「紳士のスポーツ」とも言われるゴルフは、みんなが気持ちよくプレーするためのエチケットが事細かく決まっています。例えば、パンカーを出るときは後の人のために砂をならしておく、グリーン上では相



部屋の中で講義を受ける子供たち

目指せ プロゴルファー

手の邪魔にならない所に立つ、などです。「エチケットはルールとは違ってペナルティーはありませんが、守らない人はゴルフをやる資格はありません」と古橋さんは厳しく説明しました。

この練習場では現在、80人の小中学生がレッスンを受けています。子供向けの教室が始まったのは2003年。練習に訪れる親たちから、「子供にも習わせたい」という相談をよく受けるようになったからだといいです。ちょうどその年は、宮里藍選手がプロに転向し、若い選

遼君、藍ちゃんにあこがれて

手の活躍に注目が集まっています。ゴルフの普及活動を行っている財団法人「日本ゴルフ協会」によると、協会に登録しているジュニア会員(6歳以上18歳未満)は、05年には8834人となつてバブルの時期を上回り、昨年末には1万2274人に達しました。「テレビで若い選手のプレーを見る機会が増え、子供の関心が高まっているからでは」と協会では分析しています。

ただ、「増えた」といっても、軟式野球に打ち込む小学生は約30万人、サッカーは約28万人もいるのに比べると、圧倒的に少ない状況です。



「ナイスショット!」。打球の行方を見つめる子供たち(東京・世田谷区の「千歳ゴルフセンター」で)＝源幸正倫撮影



①校庭の端に作られたスペースで練習に励む生徒たち(町立多古中学校で)②スナックゴルフのクラブと的(右端は練習用の的)

ジュニアの愛好者を増やし、ゴルフのすそ野を広げようと、いろいろな取り組みが行われています。

千葉県多古町では中学と高校にゴルフ部があり、町ぐるみで活動を支援しています。きっかけは2001年、町立多古中学校にゴルフ部ができたことでした。当時校長だった並木昭靖さん(66)によると、地域の人にも参加してもらいやすいスポーツとして、ゴルフ部を創部。町民がボランティアでグラウンドの隅にネットを張り、専用練習場を作ってくれました。「クラブやボールが学校に用意されており、町内の練習場も無料開放してくれ、あまりお金をかけずに親しめる環境です」と並木さん。部員はめきめき力をつけ、男子チームは03年から5年連続で全国大会に出場しています。04年に

学校の部・クラブにも

